

芭蕉翁詩句話大成

四二

記	66
號	
冊	5

中村俊定文庫
 文庫 18
 809
 5



朱紫卷之三



東都 法橋吾山 著

在尔仍平胡后

古今集報歌

わくわくふとよふあはすぬれ浦小りなれつこころとく
 葉報妙よいく。こころとくハ追追こころなり又復あまの浦
 紅糸くくるをわくわくとあまの浦。馬九冷慶卿いさをすくわ
 こころハ。わくわくをハ報報と行りわく。今葉まをる小。あまの
 中ひら小ひら露ひらくるとあまあつてあまとき又ハりららとらもたぬさるに
 ありよてわくわく存わくわく糸とわく。津國津國服部服部煙草煙草の名品名品まのあまのえと云あま
 美美既既せり。まをるまをるををいとしハ自自あまのうけまをてわくわくいとし。まの
 きたててすいしといとむるまをいとしより今まをるまをときハあまのうけ。こころ
 わくわくふくわくいとし
 まれもついでまをるわく

○ 相換國大儀の篇をくさるる六町をあらべて山ありなる森よ
 いふ林下よ有なる寺をこらふ森と号し一里の名もとまらちる森を
 又いふ山下者ともいひあふせう。民家三十ざりしもある。海色の
 松原は法越原といふ名ふし人々家集り 東海のりらうの里
 おむつて之川夜をやるたふといひん 古の街跡をぞ我
 たり所結成り^{わづらひの}。虎也をあらはす石の長が女を^{むすぶ} 雅名をこ^{おとこ} 冥玉の^{あまのたま}
 虎を云ふて虎と名づくといふ^{とら} といひん。のらうれ京の^{みやこ}
 けりて虎と名つちつる^{とら}と^{とら}法ぬ討死のち尼よぬく。

○ 越前の之國しつと原不秋川にわい遊女^{うきぢ}有る。おくかふ
 くら男もつる二おといやうで曉^{あけ}とくく。女もつるみ。

り水のひとあまゆりやうとあ

○ 江戸新吉原は勝山といふたまあり。醫の風をゆひあ
 今も江戸をり風といふ。あまを好むてよめ。

○ いとせ山ある川のうたふとひてそいそと袖は好むを
 け遊女^{あそびぢ}小舎^{こや}初^{はつ}より稀^{まれ}のおぐれもあふしひもよりり。
 うぬめも情^{なさけ}こころふ厚^{あつ}らう^{らう}はあぞふ^よ呼^よらう。あまよめ
 いとあや^{あや}こころづひもた^たいそく^くして逢せざう^うし^し。俗^{しよ}あ
 じや^{ぢや}ほろ^{ほろ}ん^ん門^{かど}はま^まう^うて^て自^{みづか}害^がち^ちらう。う^うゆ^ゆめ^めも^もあ^ある^るお^おひ^ひら
 小^こ給^{たま}出^でく^く海^{うみ}牙^が原^{はら}よ^より。才^{さい}と^と流^{なが}る^る池^{いけ}小^こ坂^{さか}う^う孫^{まご}自^{みづか}小^こ祥^{しやう}世^せあ。
 名^なを^をと^とと^とあ^あら^らふ^ふも^もあ^あれ^れ橋^{はし}原^{はら}の^の池^{いけ}を^を流^{なが}る^る池^{いけ}よ^よと^との^のあ、

○ 四勢園にけりけり女にけりけり。天性和方を好む秀逸
おなり。十二歳にそえ流十年正日にすらしり。おびし信を
徳にこそ法名を松とたす。去り流証言と云報す
さくも志をたも松の川よりひきりその言はあとの
と流るるとうりてむあしくありぬ。夫のお女はる勢才ありつ
ふ平いりぬ便ありて内裡よりこそ。あまの方の内み首
中よりめりて。松とつる勢をあらう。ひく死せる人の
系承とゆは。一のひーやして

○ 道子一白の徳龍十一歳にそえ。然るより在武にす
乃こそ流祖の旧跡をさうて。あ言古法を作る。

高祖誕貴家幼稚喪双親死孝追日厚出家九歳春

壯年事空師宗。獨傳旨德澤潤天地。法化通帝位。
聖道年々衰淨教。日々新南北諸寺徒結寃訟朝頻。
遂令法服脱賜姓。同俗塵空師竄南海宗。祖北海濱。
北地道路險行程。幾辛苦經日抵此國。垂訓救蠢民。
更卜幽邃地。閑居甘清貧。棲神安養界。常念佛真身。
道俗問出要示。以西方津石年送居。諸群機結淨因。
不患坐嚴譴。喜度邊境人。聖代遇赦後。興法轉寶輪。
悠悠半十歲。宗風振四海。遙尋旧跡者。誰不沾衣巾。
○ 南都ハ心水を好む癖あり。ちよ居てハあつたの風を
なす。野氏もて白修とす。字士あり。元春二年一いつる

もるれの中らうまねうとて再念す。性平を語し目山川
の多をりり一線を唱ふ。

危峰廻合白雲間 一路崎嶇不可攀

依旧懸崖三百丈 臨泉寺裡老僧閑

大の平を虫通うと東谷よ告す。長伴英とて或欲し。風
義播爾他の人の賜。出づ。まてふま子のまゝあゝめと分後う次
おは時と語りくる。の晋の羊を傳。死しての後も我れ新いぬ
名よ登るべしといひ。もろろ本小了を。臨泉寺に後見空
是也。

○ 洞也のあり奥月舟。まろろ対通新く。後継中不日言ふ。
とあるまを屋よやどり求めしよ。るに威嚴ある老翁あり。

和尚小句。襟徒あゝつ他へ一線をさくと云。月舟後
してスヤラ小柳子庵といつる家あり。即時一紙して云。

投宿嵯峨獅子菴 半盞清燈語江南

とて精舎の二白工業よあこり。時ふる人のいそぐ。

夜来風雨忽地起 紅葉秋成一二三

と消り。和尚まろり。或はして目をしつとんれ。ちやんも
清くせり。花く。る。あやふびりり。ゆ。そのま。屋の
の鬼の持もか。た。た。ひ。も。さ。け。む。

○ 四月唐母。東谷の西稻丸領の末吉村といふ。あま月耕
こと。連歌。いん。政の。あ。こ。と。あ。て。お。く。東谷。よ。出。て。遊。ぶ。の。づ。の。
物。ふ。る。あ。ん。湯。給。る。門。く。月。次。の。舎。を。修。り。く。ま。道。は。振。り。ぬ。

後妻も奥せむき世しく廣尾の糸をさるお折う一筋だけ
ぬりたよやくき外えれかひうふ有つる松が根は勝ら
げまき一雙ひくそ目の夜白を燈る。こがやくに泣くまを
あめさくま。と口号りればよんふふふふふふふふふふ
今うしあふやくさてぬれうとむ。時亨希がある女ふと
ころほよ。いあむ小石あれたよーをひふ。女うさめて。まよいひいを
懐中よ石あるとささうふ素くれれば女う知さう水をあそれと
いひ。女作とて石をむけ。馬さうのたぬう水を指してまひ
入やぐて素き一摺くとあくる。時亨いひ。女ハお根ありあは
経冊よまきめんや。まううませとさううさううさううさう
くとけうくと接道も毛あ。されどもうる万の借さふ

とたつらま袋のよまねもいとあや。根ようさうひあてらう
ふむひひ。とーあやまひて徹くせき肉爛と齧んとひ。女
樹て方ううとてささうが忽ちうをさう。一とささうう
八王子といふあそ。女ううううう根ありて足の内れうふ
女ううあうくとつんうう。はては時亨よ句をむねる也根あり
と答へひい合けう。是怪誕ふあう道共の事うそくあやむ
つんあうう。

丈夫集 開 吾河洗沙時百首 清原法河

めらうんもさう後あくよは口の園れくきぬさそとらう
今葉とらふ。意に別記よいとく。水の沙門ハ右まつ依義統
めらう。本歌あれはとて勝元のうさう向ひ。入江殿の所費と書

け玉の三徳の始なる所。是は流るるわがよも我玉の三徳よ。
一徳ある。二徳ある。三徳ある。古くは三徳ある。是は
の事をつまびらかにしつゝ、いふ徳は通達しつゝ。又
さういふ徳を漢字小つせに然尚の二字ふ由ら。信よま
あれどもまごといふはあや。流石と云い世徳と云いなり。又
紫求の原楚が故事を附合して義を流けども。迂遠して
よくあつともゆゑも。又さうくよくあつたぐいのあやさ
とごといふは助徳のまごといふは腰刀の事。まごといふ
まごといふ事はよつひけるまでの事。いふは今の世のま
武士も大小とて、あ刀を帯とらるる。腰刀とて、又まご六
す。うへ九す。まごの短刀を帯せり。柄まごつとていふ。いふと

流るるのねえ師といふまごだまれまご。さういふして出る短刀
あつた刀とも云。けはまごいふまごめをけするをまごたといふ。
まごといふまご。けはまごいふまごめをけするをまごたといふ。
利刀といふ事を略してはまごといふ。古の風信はまごた
まごたはあやをけする。あ刀の具を入る。小刀のまごたは
まごたといふ。まごたといふ。まごたといふ。まごたといふ。

十みね ひと世の月をくまひる。宗法
今おこめの徳光にやるといふ。一徳の才人にてあつた
のまごといふ。まごといふ。まごといふ。まごといふ。
まごをくまひる。まごといふ。まごといふ。まごといふ。
まごといふ。まごといふ。まごといふ。まごといふ。

今を惜むはよしといふ所のよしなり。註曰。日本紀曰。天武
 天皇四年四月。三位麻績王有罪流于因幡。一子流伊豆嶋。一子
 流血鹿嶋。是云。配伊勢國伊良慶嶋。其後人縁流。而後紀乎
 け行ハ。ぬりて。海を志摩。ふありと。さるも。ひが。下。我。
 伊勢。ふと。さるも。ひが。下。我。
 て。ふ。地。あり。と。い。つ。う。因。幡。も。同。名。あり。と。い。ふ。

右。賀。茂。縣。之。宝。曆。十。三。年。志。摩。之。海。辺。を。さ。り。て。正。一。等。家。
 考。よ。裁。れ。一。の。の。け。考。の。ご。く。の。治。ハ。冬。何。必。海。兵。部。の。也。
 今。も。い。つ。こ。村。あり。て。其。海。を。い。つ。こ。海。モ。中。也。伊。良。相。津。は。

本。洋。内。之。の。本。社。少。て。伊。勢。友。之。遷。之。の。聖。年。レ。少。計。社。と
 道。管。あり。て。二十。一。年。め。小。迂。之。み。く。里。信。ハ。大。櫛。の。津。に。ま。じ。回。宿
 物。言。長。ハ。村。長。と。す。御。朱。印。を。了。し。大。細。く。下。ら。ぬ。の。ご。を。つ。

杜。函。々。石。を。乃。乃。々
 妻。を。さ。さ。り。つ。り。横。さ。さ。り。つ。り。

け。里。を。ほ。ひ。の。い。つ。ま。む。り。院。の。み。う。と。あ。り。あ。り。

梅つちをささる候にめん保美の里

いゝこぼるちうけれ

ア子ちゆうく

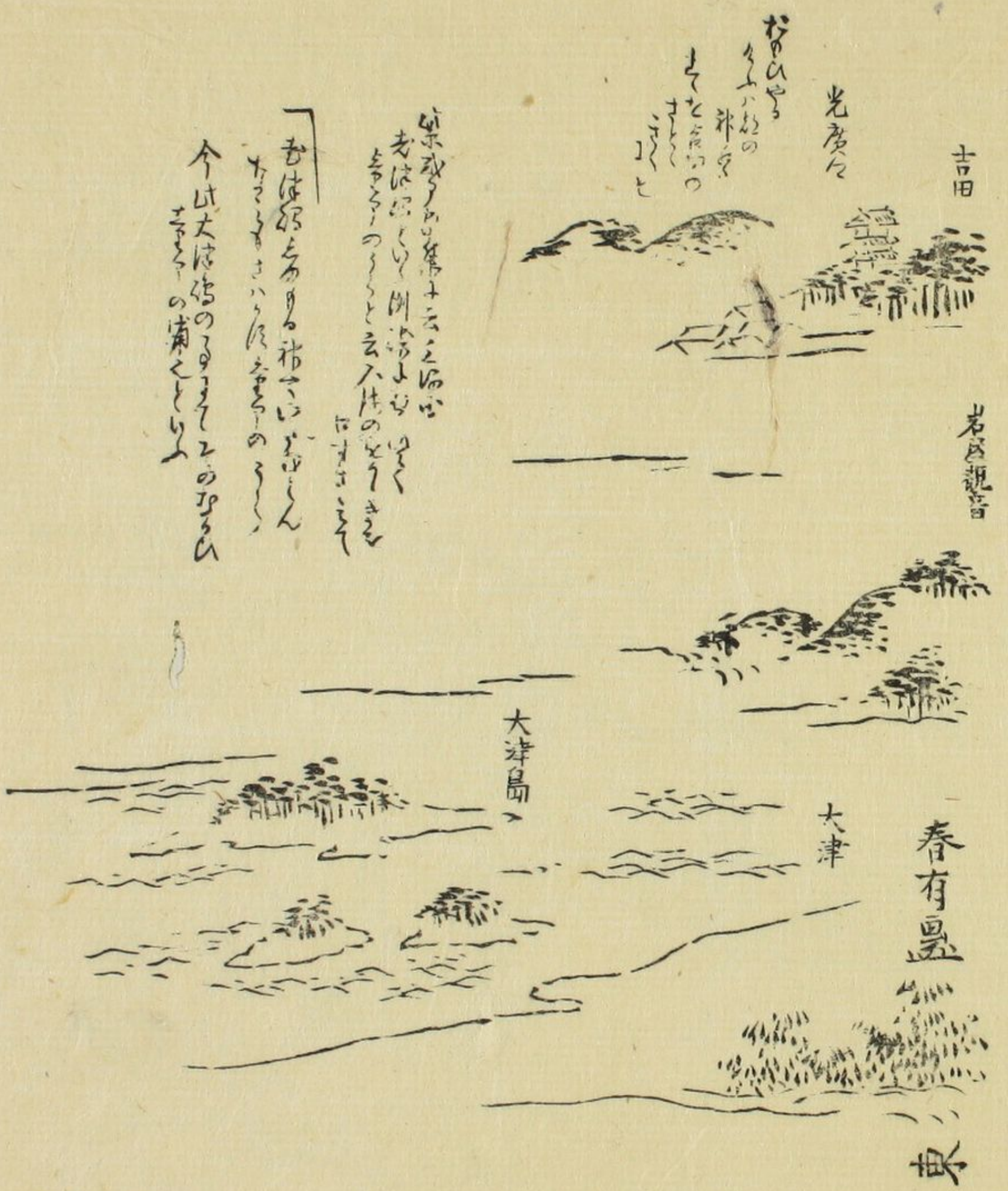
いゝこぼるちゆうく

武陵芭蕉友人桃青

いんげん今も持傳くしる家あり。雪のいとつらん舟を嬉しういふ葉
ぬぐい。夢々太の杜ふか生質をきくての白くといふ暗振る。
爰小文子。骨山と云ハ雪を打はく。南の海の果てて雪をい
わてぼるといふ。いゝこぼるちゆうく。あまもよありたりと云ハ松
あまもれちゆうく。かく河をさすその白く

三河國渥美郡伊良原崎圖

記ノ十



今此大津島の浦にありてその名は
吉田の浦といふ

イノコヨリ遠江新居之二十三ノ瀨之片瀨十三ノ上ホ

田原

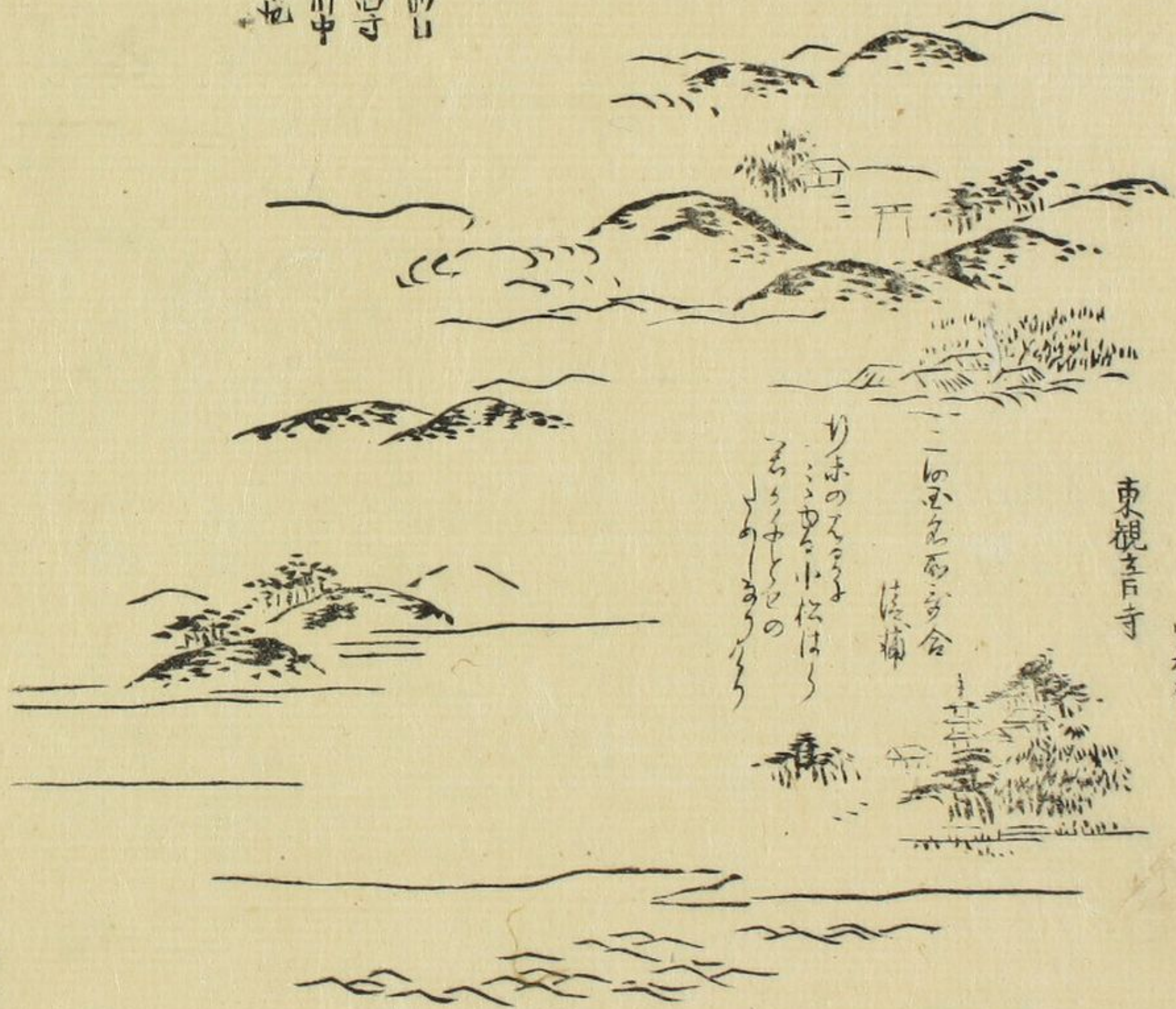


吉田ヨリ
田原ヨリ
田原ヨリ
イラコヘ七里

阿志神社載延喜式
三河廿六社之一社也
祭神木花閼耶姫命

三代実録貞觀二年八月十四日
三河國獻銅鐸一高一尺四寸
經一尺四寸於異美郡村松川中
獲之或云是阿育王之宝鐸也

東觀音寺
小松ノヲ



二の玉名而分令
は補
り未のてこ
ふか小はは
ふさふさの
しりあさる

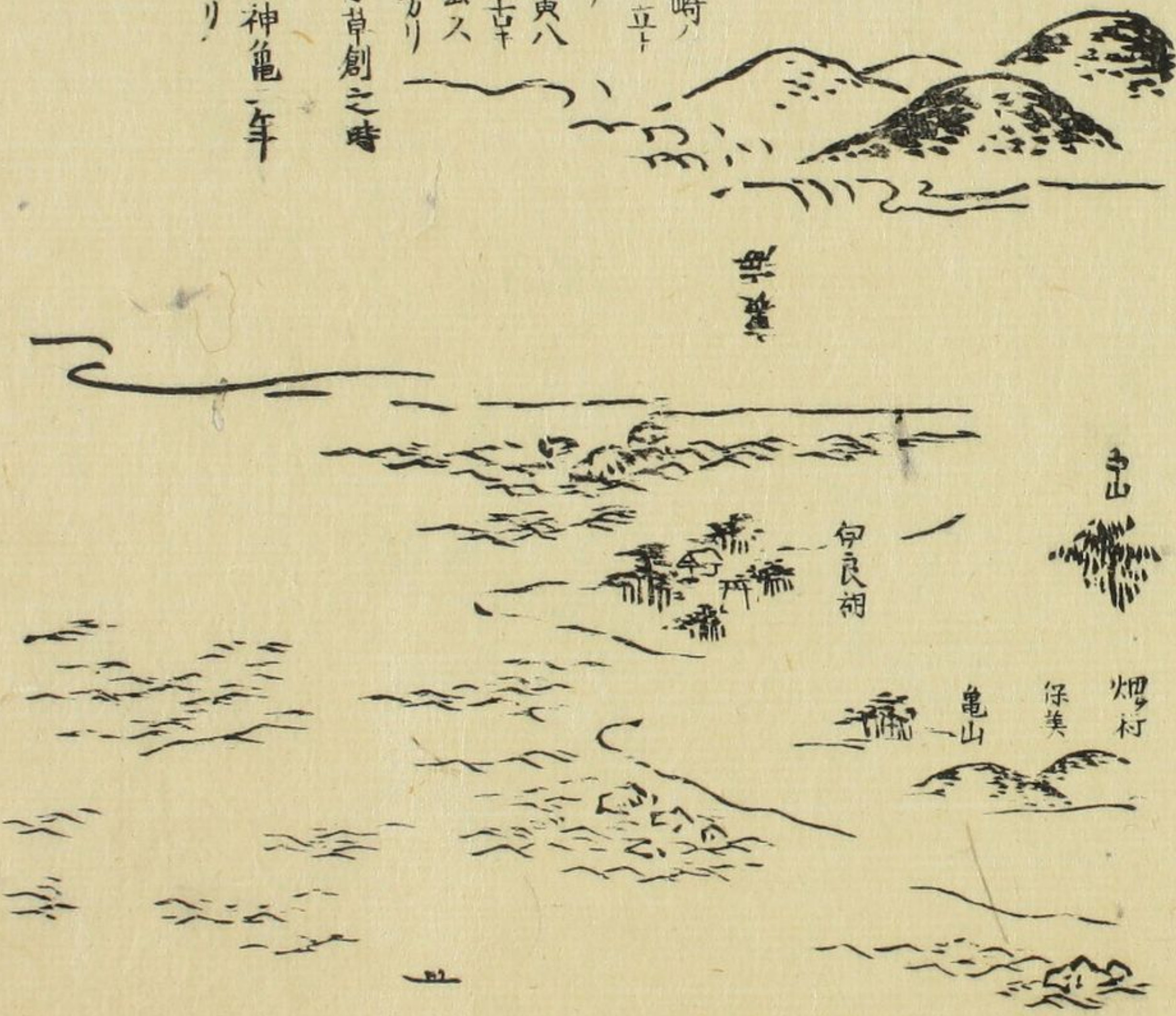
醉馬ト云村ハ海辺ヲ

山キハミテ一段高ト上
此也曹洞宗成道寺ト
云寺ニ池アリ海中潮
満止時ハ此池水一高五
十々尽キ干沙ノ時ハ池
水湧出ツ今ハ田ニ成ヌ
トト盈麗ハ日ニカハラヌ

大佛
東大寺
殿五

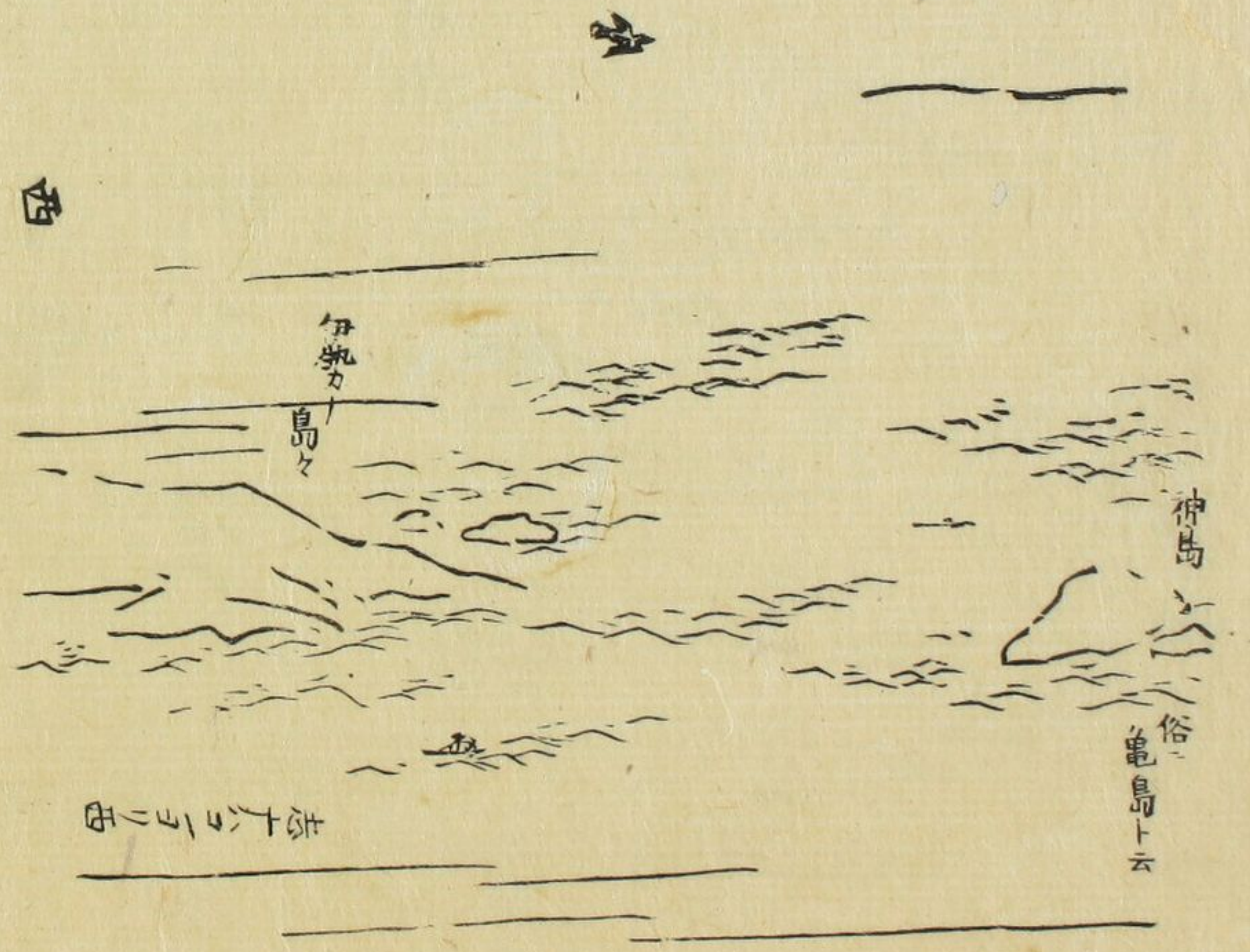
伊良胡崎
山間ニ初立ト
云町アリ
貞享三寅八
月廿辰大古早
瓦ヲ掘出ス
連七寸分リ

如斯ヒ曜アリ昔東大寺草創之時
瓦ヲツクリタル所ナルヘシ
俄戸村渡會百氏十九者神龜二年
二月一記ンタルヲ町持セリ



南
表

吉田よりいせまで舟を渡るに異境
舟の左よりこぼれをみる人のかう
「あゝあゝくりやいこのよき世



○

同書小云。舟くさるるにあはるる凡ちうつあり。あよとあやうらと
あす。田島の田ももけ留る。今葉すふけ流非あり杜給を去ての
田もとりとす其のゆをふりまふ。さうゆを流をあす。流借ふ
敏は胡屋。ゆくたりの田をつくれさうやとまたたでの田を流
くま。けいハ郭公いんやどたえこれ田をつくら運だ。胡屋くま
て流の田をよびおあだんとりり。流の田もとをタキツテ
トの通音よりたでの田もとりハ流借あり。けいより射るの異名
を流の田もよぶるといふを流よりよむとを略してたでの田
もくたりのいひ習り。たでの田もハ流民の農牛を流
ひまらりの牛心流るあの方。あややぐりんさや。てす
むらその田も。又葉た物流よ。ま苗植るむらもあやまら

社僧をてを茂小一。室下をほ下よりひちてりよとのい
むらう年申一。世よりさるの船ひちた舟艇よりそあつぬ
同書志またの流小谷川百その款を引く

浪のよるのさう波をける船をちあさよを。波船をさる
ゆつて波の志摩西も海の果ありて。山の音を吹わらぬゆひ
浦れ風のよらりとこも。又波船とさるゆひを波よりの船
吾いそ非くうつて波船一。波船に假借の文字あつて波よ
かりぬ。一。風の社古の風を一とのひちよりのひく。あつに
こがく。一。あら、んやちさる。たやち今てやとと云。夕子ツテ
ト通意。またの捲らるる。面を風の捲く聲。帆を揚ぐ
るる船よ。一。あつに。一。あつにの船をさる。帆のよ繩

を解さたので。その風の面を帆をあつて風のあつ
ぬやう小をさる。帆一吹わら。一。帆よさる。帆一船もあつま
るよらる。そのを面をもさる吹さく。それの帆をく
小出あつての。帆よさる。帆よさる。帆よさる。帆よさる。帆よさる
うけ小ある風たつといつてさるの。帆よさる。海田のつらふも
いふ。一。まきとん。一。平播磨はくま。帆よさるの。帆よさる。帆よさる
まきとん。赤穂よ。帆よさる。帆よさる。帆よさる。帆よさる。帆よさる
草類小裁よりありせんと。古一犬形をさる。帆よさる。帆よさる。帆よさる
おを。一人虚をつてさる。帆よさる。帆よさる。帆よさる。帆よさる。帆よさる

多しある所くよき事なくわらう一山使のせ。山使のといふは書者
これといふはあつた。保信拾遺たけのこ不遊たけのこ仙たけのこ密たけのこ并たけのこよる事よ敷たけのこの字に
不たけのこふとよめるとも。あつて一山の山使といふは。この山使といふ
やうよめをいふ。山の山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。
この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。
甲冑こうぐは若者ゆゑのけりまは。又いふ山使の事といふは。
あるも山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。
ふといふを正徳とす。

○古今集 鳥羽一巻一巻 藤原勝俊

志願のあつたまは。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。
けり。古今集も。文字のけり。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。

さる小。ゆく船いとあまの海路に歌をよ。巨の假名一字よ
なれおとちなり。大平のりあたり

○新撰林 武者少路名陰御門人 泊月著

あたふやの船をくよめく。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。
け御旅あまゆ。紫よこて。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。
志願ふあの一の白あまのけり。泊月あまのけり。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。
ふりて。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。
ぬる人あま。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。
たふの船をくよめく。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。
船をくよめく。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。この山使といふは。

○むらうり我國の雄略ハ史記ハ正の情勢ナリトシテ吾山

つづく。滑稽列傳をせらる。小索強曰滑稽也。稽異也。言礼理
異同。辨辨滑稽也。又曰滑稽酒也。言辨福不窮。猶酒也。順厚
洒洒然也。あと酒客の御日ほを吐く已ざるを。滑稽の言はより
おしく。系をるすごとく。詞のまはりあはたしく。りめんの。毎の
淳子。楚の優孟ある。ひい武帝の時の東方朔が。まうり。利口
毎舌少して。其君よ。風流を入り。

○ 秦の始皇大なる苑をうつく。東のう。函谷関西のう。岐別の雍
縣。および陳金縣をうつく。て。鉄をきんと。の。か。優孟。さ。て
云。是。一。辰。お。り。ろ。き。水。と。る。君。平。お。り。く。金。款。を。その。中。に
た。あ。ら。う。と。ま。い。し。の。窓。窓。ひ。ま。り。と。何。ぞ。お。を。ん。中。か。の。極。鉄。の
角。小。觸。む。法。卒。を。つ。め。さ。は。ら。款。い。ま。もの。る。く。も。む。む。け。け。け。

やどくくと。亡。あ。ん。始。を。こ。道。を。止。り。あ。ふ。

○ 二世皇帝。王城をほをひく。塗らんと。言ふ。優孟。あ。く。え。く。云。
く。こ。く。も。作。を。を。め。り。中。事。多。居。あ。く。り。め。け。後。を。養。せん。と。云。て。
法。民。う。れ。ひ。者。一。む。も。ひ。く。ま。る。け。ら。ん。法。よ。け。く。も。た。要。害
小。し。う。あ。る。れ。窓。あ。ら。う。て。城。よ。上。く。む。と。せ。ば。と。く。く。滑稽。あ。く。派
上。より。ま。り。卧。く。た。の。づ。う。府。を。か。う。う。減。び。あ。ん。二世。太宗。笑
ひ。の。ひ。く。終。よ。そ。ま。る。か。く。た。と。ま。の。笑。語。を。能。俗。と。云。又。文字。の
較。定。く。た。款。字。平。仄。の。紀。律。も。一。我。朝。の。能。俗。ハ。能。俗。ハ。自。滑稽。と。い。ふ。
て。長。句。ハ。六。七。五。短。句。ハ。七。七。百。款。月。花。の。措。法。あ。ら。う。て。滑稽。小。異
た。り。ま。ら。れ。能。俗。ハ。お。の。ひ。く。能。俗。滑稽。ハ。自。滑稽。と。い。ふ。
と。い。ふ。自。お。の。の。況。し。く。ま。古。人。の。ま。ま。根。つ。て。今。さ。う。あ。く。あ。

易なる小いあ〜ぐり〜〜〜

○ 文體明辨

戲作俳諧躰遺問二首

杜甫

異俗吁可怪斯人難並居家々養烏鬼頓々食黃魚
舊識難為態新知已暗疎治生且耕鑿只有不關渠

其二

西歷青兗坂南留白帝城於菟侵客恨拒糒作人情
瓦ト傳神語畚田費火聲是非何處定高枕笑浮生

杜甫の雍州咸陽の人の唐の玄宗元天室のるあるひは
あるひは罷む。安祿山が乱を西蜀に避く將軍蓋武の營あり
し。及又流落して憂列小居する矣俗呼あや〜〜山は

蜀は中國に屬して居れども。もとより西戎の北長安の故より
されハ人の住海ありさる大ふりりなる有俗といひ定呼は
負すも思ふこといふるあるもたれとすらこれ故よと
あよや〜む。故く多ひあ〜し故とすら此の杜甫されかく
の〜の風俗の人と交り〜〜。あ〜〜とを〜あ〜
の産業を〜ふりひを〜。烏鬼ハ猪をいふけも魚を
〜〜として居民の令は程とせり。鴨ハ魚を令は「魚魚
ハ鱸。江東よて鱸をち魚とす。舊識態を〜〜。新
暗疎」二句一をよよ〜の風俗ありハ胡夕のま〜〜
〜〜。治生且耕鑿」からよは居を定めてい〜〜力を

ほくー耕して食ひくらちて飲む己只有不關課もあつた力を
たむふよさく定む道にほぞは階はあづらうかまふるあつたやとく。
おまを倭借神の創世の存在を排去して可まふことをいひをせ。
故事故典を他接よとくは。是造作するろをたれ新と可はく
る也。倭借し種々の説あれども多き。昔は二首の對二句あり
ありせやなりりろくろくも神出鬼没して杜の傳は
何れが異出たるとあり。とくも又倭借の意也

其二

西のりこ青兔坂を登て南のりこ白帝城は留る長安の地を旅
ちる白帝城よりなる。於荒客恨を後一粗粒ノ人傳をある

おまの楚玉の方言小虎のりをりた傳ふり。口面より
こく言ゆれば。旅人の心を傳へむ。それさ人あつた胡夕も
ものよそあるも風味のありきを答へて。難儀とや。答へて好
麻菓子を粗粒といふ。瓦ト神傳をつて。金田大考をつて。是
鄙のりりも鬼邪のあとを伝へ。巫覡のりも中をくると
傳へたれをのく。瓦トハ龜よやく馬よやく。そのひをさるを
り也。又聖の山田をふ。枯葉を焼く灰とて。他おの傳を
下とる。カ玉にらんぬるとかり。是非何やう定むらん。村
をこくして。浮生を知らん。上をむさんぐり。そく世の中
は。あつた。おのり。おのり。回舎の人のあつた。を傳ひ。田舎の
おれ人のあつた。を傳ふ。おま。おま。回舎もあつた。おま。おま。

千帆ひくくろといひはよよ本抄書れ終は後抄 小のそ
こがた垣校のそよ夕影まればとまひくよとよあすやせ
いふもさつとつるも夕影のそよといひ。そよまま。帆と唱れば
長たふやも。何よ程まあれはも。ふま。とて附とあ。ひ
て百款満くのち月ひくくふに。入るに。入奥を。ひいて
後。こ。や。ふ。酒。甜。る。く。作。る。春。日。に。ひ。く。く。や。の
野。と。も。は。る。る。予。が。云。貝。原。馬。位。も。ち。中。は。り。ぬ。と。せ。は。
それふ。と。不。審。あれ。た。ぶ。また。とい。物。を。よ。む。を。ま。の。春。日。
ま。の。字。同。字。別。分。ふ。く。極。り。ぬ。等。日。の。日。と。よ。と。の。句。を。と。る。
さ。て。い。春。を。カ。ス。と。後。る。や。と。抄。を。た。ま。る。く。知。い。ぬ。予。ま。る。
其。角。の。信。書。とい。ひ。雪。氷。も。た。ぶ。また。の。類。の。丸。を。と。り。う。

やカリんばさくそあめとのまひり。近習の士。予。小。同。あ。て。い。く
堀の船。お。た。の。ひ。さ。か。ど。称。ま。る。い。う。ね。る。由。来。也。予。は。後
そ。ん。と。す。予。上。巳。の。白。紙。の。人。形。を。つ。り。舟。を。拵。ま。く。て。お。ま
小。流。一。笑。を。除。く。ま。る。九。月。一。陽。の。陰。の。卦。を。陽。後。ん。と。ま。り。是
表。裏。ま。る。い。ち。ち。代。は。九。月。九。日。も。ま。り。一。と。る。今。の。船。則。然
代。の。ま。る。あ。り。とい。ふ。は。ち。も。あ。り。あ。ん。とい。ひ。士。か。さ。ひ。て。新。後。は。漢
士。を。こ。り。て。中。茶。と。唱。へ。る。を。公。さ。り。と。あ。め。ひ。て。故。う。後。は。法。さ
ふ。と。い。ひ。ひ。と。う。り。て。め。は。る。世。の。腐。儒。の。才。け。あ。ま。け。れ。一。一。を。を
忘。れ。る。ま。は。漢。を。あ。ま。あ。て。中。茶。中。ま。る。と。い。ふ。く。自。を。を
ま。り。ま。る。し。巳。が。舟。を。拵。め。よ。と。い。は。ぬ。世。の。ま。の。智。人。の。教。う。る。や。中

没一十年。宗因。連方の道は出くばらるる。梅岳の判考よ成て、毎くむつくたる事として。梅岳の源流ありと成して、帰るる。

○太平記云万里少治大納言富房卿の子具中納言富房卿を
徳孝侯として御侍容ありけり。山山の宗命より御侍
小治少治として出立せらるる。及この西を逐鹿し、山川斗敷
の男とぬすひの方をたづねたり。是に、富房の孫とて、降参の
る。一首の歌を贈されり。 けすけの山こゝ世の人とりあり
やなれ松よとてん。法名居士初授翁と云と事蹟。下野玉於登。
初見新木長光禪者として石函をり出せりことあり。カ、小治
略王經令洞毘沙門天像一尊。是も古蹟あり。後一字の徳の

救ふ入るるやあんとゆはり。是南朝の運を祈の
とあり。朝廷を立て、いさ言ひつゝ極徳をかり、斗敷の
力とぬす。是る方とゆゑ良忠をたぐひのつぎあり。と
けれ。古、小治の南芝令たてふ。徳の神と号して
富房のをぬすやあり。け、西、同系、山、とて、運、徳、の、おと
とる。は、徳、海、上、なり。され、は、山、嶺、鳥、の、地、中、山、と
先、は、山、の、め。社、は、田、源、の、ち、郷、人、徳、を、を、く、い、集、れ、と
古、を、る、山、は、御、ふ、あ、り、け、り。は、や、を、め、り、深、く、求、む、れ、は、ひ、と
つ、の、石、棺、あ、り、る。集、あ、り、る、と、て、小、書、い、う、ん、と、せ、り、西、山、を、
た、り、て、あ、り、と、る、と、て、評、く、る、あ、り、れ。こ、い、も、中、納、言、富、房、の
の、遺、骸、を、看、の、と、く、富、房、の、徳、と、判、して、こ、も、り、ら、社、を

いふもははるる。波々々あはるる。人をもつてみまをぶくをぶく
 物事より作るあうく。けつりる。水邊本を建つる。是
 徳の終と漢の終なる。由なる。と古老中つる。なる。
 我邦の忠。六休令村。守屋大連。和氣清麿也。及世の
 忠。重盛。若房。正成也。と。まよふ古今稀なる人物
 あくたよる。

○ 駿河小富士の孝子。今泉より古来の古法が父母の像。子
 遊の口十二世の住僧。他阿相模國最良居。最良は山法清浄光寺の
 通教なり。傍正最良。及末只言任一人の
 「あかひくろく。信あり。父母のふふいあ。一。神も佛も

兼て是巻之目終

浪速 田中宗榮堂藏板目錄

大坂心齋橋通安堂寺町南江八

秋田屋太右衛門

法橋寺島良安編

和漢三才圖會 全冊

内閣秘傳字符 全

春秋列國圖 一校

其昌勝王閣 行書 二冊

唐明詩學聯錦 袖珍 全

同 征迹帖 中書 全一帖

同續聯錦 全 同續二聯錦 全

同 千字文行書 中書 全一帖

同掌中聯錦 同掌中詩聯

義之十七帖 大本 全一帖

唐宋詩語類苑 中本 四冊

詩法掌韻 小本 五冊

裝劍寄賞 七冊

四季十二月二分千時令人事草木鳥虫時令ノ景
 物等ノ異名發字詩語類苑ヲ上下二段ニ見
 シメ詩格正編平仄之圖式五七絶句律體ノ索引
 等ヲ注レ初學ノ詩課ニ便リ

唐本翻刻ニシテ卷首ニ畫列ヲ附シ釋字
 九千余頁ヲ書ス釋字大全ナリ

五	雜俎	八冊
楚	辭證	四冊
古	文前集	一冊
古	文後集	二冊
管子	全書	十三冊
同	甫正	二冊
同	箋注	二冊
四	書	通卷五 十冊
四	書	白文 四冊
同	片力寸符字本 三冊 同卷德形 四冊	
五	經白文	六冊
同	小本	六冊

五	經	道卷五 十一冊
同	新刻	十一冊
同	關齊志	十一冊
同	韋注國語	六冊
同	新板	十葉校正 六冊
同	增注	家注 八冊
同	明道本	六冊
同	國語定本	六冊
同	畧說	四冊
同	律呂解	二冊
同	解刪甫	一冊

春秋	左氏傳	安永板 十五冊
同	寬政新板	十五冊
同	國字解	十冊
同	國字辨	尾州 加藤著 十五冊
同	校本左氏傳	泰清 十五冊
左	傳屬事	十五冊
同	系疏	二十冊
同	助字法	三冊
同	考	小本 三冊
同	杜解甫正	三冊

左	傳人名錄	全
同	直音	全
同	字引	全
同	杜林合註	
同	狐白	
同	注疏	二十冊
左	國腴詞	二冊
左	傳鱗	全五冊
同	拏翰文	五十冊
同	翰文起	全十冊

和漢茶志 三冊

茶湯秘傳圖式 四冊

尊圓親王御真筆 全

同 御筆朗詠集 二冊

同 小倉色紙 全

和語陰陽錄 全

和語陰陽文繪抄 二冊

左ノ下ニキテ西邊故ノ物ヲ抄出シテ其ノ事ヲ考ヘテ撰シ
トシ武蔵野時武斗先生ノ画圖トシテ人ノ
いふことトシテ其ノ事ヲ考ヘテ撰シ
聖書ノ基トシテ撰出セテ其ノ事ヲ考ヘテ撰シ

武田三代記 二冊

北条九代記 十二冊

繪本名兵林 三冊
此尾常流秘の才とて神右衛門守久以来の左
勇士の高名なり。且居士の英雄事と
集め加へて其の傳記なり。其の事ヲ考ヘテ撰シ

画 英 狩野家隨一の繪手本也 六冊

畫 宝 同形 六冊

生花千筋籠 三冊

京都御所花御所正一家の御所なり。其の事ヲ考ヘテ撰シ
道ノ寸なき事トシテ其の事ヲ考ヘテ撰シ
と云一門人一切紙トシテ其の事ヲ考ヘテ撰シ
成陽院所ナリ。其の事ヲ考ヘテ撰シ

天地惑問珠 二冊

日月風雷雷震鬼門方位或一此惑問珠の記。其
山深谷道又日月の柱非神の事人の生死其外天
地の句トシテ其の事ヲ考ヘテ撰シ
此と合意の由トシテ其の事ヲ考ヘテ撰シ
其の事ヲ考ヘテ撰シ

秘傳世宝袋 三冊

此書ハ神木の生書本撰録也。其の事ヲ考ヘテ撰シ
其の事ヲ考ヘテ撰シ
其の事ヲ考ヘテ撰シ

堪忍記 四冊

只承先生作
此書ハ其の事ヲ考ヘテ撰シ
其の事ヲ考ヘテ撰シ
其の事ヲ考ヘテ撰シ

曾呂利狂歌新 三冊

曾呂利狂歌新の事ヲ考ヘテ撰シ
其の事ヲ考ヘテ撰シ
其の事ヲ考ヘテ撰シ

商人軍配記 五冊
此書ハ商人の事ヲ考ヘテ撰シ
其の事ヲ考ヘテ撰シ
其の事ヲ考ヘテ撰シ

出世塵功記 全

早割道塵功記 全

算法出世宝 全

此書ハ算法の事ヲ考ヘテ撰シ
其の事ヲ考ヘテ撰シ
其の事ヲ考ヘテ撰シ

芭蕉袖草紙 三冊

第一代の句と年歴以て流りのうづりりすと
如く且古入四季の歳句と歌歌と集む
仇人といふ人ハ一及るべきのまゝなり

俳諧道の便 小本 二冊

正年日長言正の著述よりと蕉口の道と傳へり
ぶとこころの丹海せん後句切字の意味併合を撰
は言ふこと伝傳正凡のたすくきり 和洗口伝
ことりり 及び一たれは野とりてめく 伝傳
後句の上よりとまきなり

古今集むかひ 三冊

古今和歌集の注釈 神ひやく清原 山の
歌の附きに袖とひやくと伝傳してとてなる
ふやくと伝傳とりの注一たれは思せぬまき
とてのまひかたのひやくとまきなり

冠辞考 真國大人著 十冊

和舞の松浦とわいいうえとむきと月との和音五
十字と次よりと伝傳伝傳なり

冠辞考 續貂 秋成大人著 七冊

冠辞考よりれり伝傳なり

技本古今集 蓮河師教 二冊

此書幸ふに併仲加後百書居りての伝傳
亦ゆりて幸よりて百書より右三原の花とつ
古学の助とてり古学集伝の骨髄なり

和歌新異竹集 湘壽 二冊

同 二聖集 二冊

万葉集中入丸赤人の舟とてり一冊 二冊の
伝傳素より考のせり石解花沈大人の作

續歌林良材 二冊

新歌林良材 二冊

津不物語 三十冊

紫文消息 一冊

伝傳物語の伝傳の歌とてり人の伝傳
こころとてり伝傳の力とてり人の伝傳

孔叢子 三冊

同 増補 家注 五冊

増補長曆頭書 一冊

新童子往來万室大全 大本 一冊

庭訓往來古状補高書 未守なりとてり
童子教よりとてり其外重宝の事教より
童子抄の伝傳なり

新童子往來 無カナ 一冊

同文政新校平か存 一冊

森羅万象要字海 大本 一冊

玉海節用字林藏 同 一冊

大會節用文字選 同 一冊

右三部とも字引節用の大全なり
同 一冊

萬會節用百家選 大本 一冊

大冊の節用者多しとてり文字の多しとてり
傳よりとてりなる此節用とてり傳傳なり
文集の上中下手節用の事文章節用なり
和傳名家の伝傳四段好書の事能立傳立書の事
西人物圖其外万室節用の事とてり傳傳なり
とてり多しとてり名とてり傳傳の事なり

大福節用萬室藏 日め 一冊

外科衆方規矩 一冊

奉道醫療道道 一冊

外科調室記 一冊

世人種物瘡毒一切の事傳傳見多しとてり
伝傳伝傳の事なり内服薬の方全書おりの
傳傳伝傳よりとてり伝傳一切素人よりとてり
出来りてり伝傳よりとてり伝傳の事なり
傳傳の事なり伝傳伝傳伝傳伝傳伝傳伝傳
伝傳の事なり伝傳伝傳伝傳伝傳伝傳伝傳

萬葉集類聚抄 二冊

歌道人物志 七冊

百人一首名所圖繪 三冊

百人一首基象抄 二冊

女早見案文 小書一冊

湖月百人首錦花選 全一冊

紅梅頁一首小倉錦 一冊

梅が枝百人一首 一冊

雙葉百人一首 一冊

桂百人一首玉兔 一冊

女學則操鑑 一冊

此書ハ大學の教へて女子一代の身もたれ... 夫け方と云まはるる歌と云ふ事... 物語や年中の事女子必用の事... のと云ふ事... 女子の身もたれ...

活知心法 一冊

同新板 二冊 同小本 一冊

北山醫案 三冊

灸法口快 三冊

脚氣丹正 一冊 同提要 二冊

脚氣方論 三冊

華陀中藏經 一冊

妙藥不來人 一冊

女文會百花選 全一冊

古今百人一首錦織 一冊

浪華百人一首 一冊

類葉百人一首教文庫 二冊

花陽百人一首 一冊

女今川姫小松 一冊

此書ハ諸國... 凡ハ... 妙薬不來人... 女文會百花選... 古今百人一首錦織... 浪華百人一首... 類葉百人一首教文庫... 花陽百人一首... 女今川姫小松... 古更... 女信元...

江戸深川屋宗匠撰

近世發句集

全四冊

當時在邦の諸名家履り評の句と四季の句と秋歌の句と冬歌の句と春歌の句と夏歌の句と文政口調の句と集り

月居宗匠撰

夜半翁無村文集

全二冊

此集ハ歳旦夏の況繪並に暮實録並録此作所ニ化ふる楚翁の傳楚翁の記の芭蕉堂再興の記なり世一からんた多故拾遺とひろく世一知りし

芭蕉翁發句諸抄大成

五冊

翁一代の句と評とをば集め選集とすや、世の中よりよつたを仔細と知る人昔はれはく、今史記林子とよつたの幸奇とをく作られ、和の句と世一はれ、古名家の流況と奉、れは、芭蕉翁の傳と知る、たかひく、世一の書とれ、初巻の傳と、二別くと有玉の大成なり

譯文笈蹄

初篇 六冊

此書物ハ祖来先立、口授ニテ詩文其外存字ニ取扱フ処ノ虚字并虚字同訓ニテ義ノ同シカラサルヲ門人ニ口授テ傳エテシテ形状作用ノ字義ヲ詳ニ明矣シタル答ナリ

同 後編

三冊

同 字引

一冊

文語解

五冊

大典禪師ノ著述ニメ虚字実字助辭字等、同訓異義ヲ注解シ、凡ク字義ヲ知ルル答ナリ

譯文須知

五冊

虚字助辭ノ同訓異義ヲ何ノ書ニ出スルニ云テ詳ニ考テ同訓ノ字ヲ一頁ニテ抄出シ、字義ヲ求ルニ安カラズ右ノ書ニ上掲諸書者、凡ク虚字ニメ大ニ益アリ

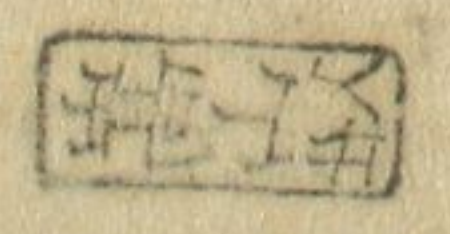
虚字解

冊二

同後編

冊二

同六



Handwritten notes or signatures at the bottom left corner of the page.

真三